

## シグマ研究委員会準備会議事録

日 時：昭和44年4月22日(火) 11:00 - 17:00

場 所：東京本部(第2会議室)

出席者：百田，中嶋，塚田，五十嵐，鈴木，大野，能沢，桂木，  
森田，西村，飯島，坂本，宮坂，片岡，長山，更田

### (配布資料)

1. 第31回議事録
2. 委員名簿(案)
3. 委員会規程
4. 委員会の運営
5. 運営細則(案)

### (議 事)

研究委員会準備会の性格について，委員長から説明があった。委員長と委員の決定を行い，早急に発令してもらおう。発令の日に委員会を開き，専門部会を発足させる。

#### 1. 研究委員会規定および運営についての説明(鈴木委員)

- 「開発」は他の委員会でも用いている。
- 第2条第1項により中性子断面積研究会は行える。
- 委員長は職員のうちから。客員は職員に含まれる。  
(客員は研究所と契約を結んでいる)
- 原研の研究委員会では，幹事と委員は別人格としているので，その意味で本委員会には幹事はおかない。運営細則で設ける。
- 庶務は核データ研ではやらない。他の委員会も同様である。

#### 質疑応答：

- 第2条で収集が落ちたのは？：評価に含まれる。
- 落ちたために不利になる点はないか？：
- 収集は情報部の仕事ではないのか？：情報部の仕事の性格は委員会とは違う。
- 委員会とデータ・センター(研究室)との関係は？

将来はセンターがすべてを抱括するが、現在はシグマ委の傘の中での活動の一部を研究室で行う。時間的に変る。予算執行を委員会に認めていないので、研究室を通して執行している。

## 2. 委員の選考についての審議

別紙の通り27名が選考された。ただし動燃団からは2名出してもらい、その交渉は桂木氏があたる。

(順不同)

- |                 |                    |
|-----------------|--------------------|
| 1. 委員長 百田光雄(原研) | 15. 委員 坂田肇(原研)     |
| 2. 委員 中嶋龍三(法大)  | 16. " 坂本正誠(原研)     |
| 3. " 飯島俊吾(NAIG) | 17. " 鈴木猛(原研)      |
| 4. " 森田敏夫(MAPI) | 18. " 竹腰秀邦(原研)     |
| 5. " 西村和明(原研)   | 19. " 塚田甲子男(原研)    |
| 6. " 桂木学(原研)    | 20. " 中村久(富士)      |
| 7. " 五十嵐信一(原研)  | 21. " 長山泰介(原研)     |
| 8. " 安成弘(東大)    | 22. " 能沢正雄(原研)     |
| 9. " 河合光路(東工大)  | 23. " 更田豊治郎(原研)    |
| 10. " 片岡巖(船研)   | 24. " 宮坂駿一(原研)     |
| 11. " 片瀬彬(九大)   | 25. " 山本正昭(日立)     |
| 12. " 立花昭(原電)   | 26. " 川島協(動燃後日指名)  |
| 13. " 大田正男(京大)  | 27. " 小林節雄(動燃後日指名) |
| 14. " 大野善久(原研)  |                    |

## 3. 専門部会の提案(予備討議)

- シグマ委としては、はっきりした目標があつて専門部会を考えたか：シグマ委では、炉定数の作成、核データの評価に主眼をおく。その処理の方法の開発、研究は所属機関で行い、確立した方法を応用する仕事は、委員会で行う。
- ENDF/Bをブラック・ボックスとして使用しているので、核データの人々でその内容をもっと調べてもらいたい。
- それはむしろuserの方がやる仕事ではないか。
- 米国ではuserが行っている。ドイツではSchmidt, 英国ではParkerという個人が全体をつかんでいる。Schmidtの仕事にしてもuserは吟味し

ながら使うべきである。

- user としては original データと比べて云々することは無理である。
- JNDF をつくる過程で ENDF/B の内容をしらべたらどうか。
- 現在は iteration 0 の段階、核データ（専門家が original を調べてみる）と炉定数（炉の計算に応用してみる）との iteration を繰り返す。
- LMFBR のレポートをみても、ターゲット核反応、優先度は動かない。核データグループはこの項目を洩らさないようにしていったらどうか？ 各専門部会の 44 年度計画がのべられ、その結果今年度は今まで通りの名称の炉定数、核データ、熱化という 3 つの専門部会で行くことになった。

#### 4. 運営細則

鈴木委員から配布された資料にもとづき説明があり、修正の結果、細則が決定された。

#### 5. 44 年度実行予算

計算依頼費は炉定数 225 万、核データ 280 万、熱化 180 万、計 685 万が確定している。あとの保留分については、研究会旅費等への振替、または再配算を考慮する。

- 研究会：8 月は不可能、半年の余裕がある。
- 研究会：時期的には 10 ~ 12 月頃
- 旅費等への振替の念はおしてあるが、今すぐとはいかない。現在配算してある枠内で使用し、不足分はあとで考える。

#### 6. 2 年報の件（42, 43 年度）（五十嵐委員）

報告作成についての案が提出された。

内容は 1) 序論（委員長）

2) 国際交流と 3) 国内活動に分ける。（各グループ責任者）

（CINDA, SCISRS, PROGRESS, レポート, Request リスト, 各種国際委員会）

#### 4) 結 び

長山委員から報告書を出す場合、動管室に notice したらどうか？

43 年度の研究会がひっかかるかどうか？

タイム・スケジュールは、5 月一杯に原稿を集め、6 月中にまとめる。7 月に学会に提出という予定。詳細は幹事会に一任された。

7. シールドグループの現状（宮坂委員）

ENDF/Bの勉強，Formatの検討をしてきた。あと2～3回で問題はつまってくる。これで学会での作業は終る。今後は専門部会を作って仕事をしていきたい。

- 原研の総枠が変わらないし，増えても計算費の配分には困難があるだろう。
- 外部のChannel，原船，PNCの予算と関係づけてはどうか？

8. その他

1) Hollanderの件

6月2日～6日のBNLでの会議に意見を求められている。

2) 数値データの入手および取扱いについて

タイプ印刷にして委員会内に通達する。

3) 資料：PUのinelastic scatteringを関心のある人々に配布した。

4) KFK-1000 High resolution total cross section measurements 0.5～30 Mevが送られてきている。

5) 次回：4月20日

- 主な議題は45年度概算要求について